

震災で生まれた絆と友情

岩手県

又川 またがわ
俊三 しゅんぞう



1989年、新聞記事に惹かれて大田区千束の(株)ローヤル本社を訪ね、鍵山秀三郎社長にお目にかかりました。衝撃的でした。それから私ども全員で、朝礼前の掃除を始めました。

1993年「日本を美しくする会」が発足、1996年「岩手掃

除に学ぶ会」が生まれました。

鍵山先生には、わが社の社員研修「感動大学」で2度講演いただきました。『ムダな努力はない』『人間を磨く言葉』『凡事徹底一日一話を隔年で社員に配り、朝礼で活用しました。これらの学びなくして、2025年に50周年を迎えるわが社はなかったと思います。

2011年3月11日、東日本大震災発生。仲間の家族や友人、勤め先や取引先などたくさんの方が犠牲となり、いまだ行方不明の方もおられます。

掃除に学ぶ会の皆さまには、多大なご支援をいただきました。台湾の皆さまからのご恩は決して忘れません。お礼を兼ねて「台湾美化協会」年次大会などで5回

訪台しました。徐重仁理事長ご夫妻を岩手にお招きし、台湾と関わりの深かった岩手の先人後藤新平や新渡戸稲造記念館を見学され、講演もお願いしました。日台の絆と友情を発展させ、後世に伝えていくことは、私たちの責務と考えています。

陸前高田の、津波から残った一本松でバイオリンを作り、千人のバイオリンストが千の音色を奏でその思いを繋げています。2014年東京紀尾井ホールに上皇様ご夫妻をお迎えし、演奏を鍵山相談役とお聴きした感激は今も心深く残っています。

震災でのご支援と交流はとて多くあって、書ききれません。本当にありがとうございます。

(020 0022 岩手県盛岡市大通3丁目1-23 3F)

掃除を伝え続けたい

愛知県

大塚 おおつか

久利 ひさとし



掃除以上にいいことはありません。本当にいいことを教えてください。ただきました。掃除が一番いい。私は、自分が掃除をやっていたなかつたと考えると怖くなります。掃除をする、「気づき」ます。前回気づかなかつたことに気づきます。それが自分の内面に働き、今まで見えなかつたものが見

えてさらに気づき、いい変化が起きます。身の回りがきれいになると「心境が変わり」ます。やればやるほど深くなります。

掃除をすると、仲間と「価値観を共有」できます。自分のことより、他人や公のことを考えるようになります。掃除は世の中を良くする大きな力になります。

掃除を知らない人、わかってくれる人は多くないです。でもそういう方々に、「伝え続ける」ことです。

まず一人で黙々と実践します。そして「一人の百歩より百人の一步」で仲間が増えれば、世の中は必ず良くなります。最初の一步は大変、継続することも大変、さらに大変なことは「伝える」ことでしょうか。

日々掃除をしながら考えています。次世代の人に伝えたい、止めたら終わりだ、種をまき続ければ花は必ず咲くと…。

自分優先の世の中を、このままにしておけません。まだかつての日本に戻すことができます。気づいた私たちは、その責任を負っています。

今こそ掃除しかない。掃除の心は、ズーッと生き続けます。なくなることはありません。私たちは、掃除と相談役の心を次世代に伝えなければなりません。コロナ禍で掃除や日本を美しくする会が劣えることのないようにしたいと願っております。一人ひとりに、熱い心があるかどうか問われていきます。

(464-0846愛知県名古屋市中種区城木町1-25-2)

鍵山先生とご縁を いただいて

福岡県

米村^{よねむら}

春美^{はるみ}



私は普段は漢方薬のお薬屋さんを営んでおります。2004年、神渡良平先生とのご縁で鍵山秀三郎先生とお会いしました。

「腰がとても痛いので治癒してほしい」とのことでした。先生の体を見せていただくと、背中が亀甲のように固いと、一瞬で感じ

ました。それ以来、鍵山先生のお手当てをすることになりました。

お掃除の会が、例えば熊本や愛知や広島などどこであつても、そのたびに近くのホテルをとり、鍵山先生のお仕事が終わつたあとお手当てをするようになりました。

そのうち私は、鹿児島島の鎌田様の会や、荒尾の眞田先生の会など、いろいろな掃除の会にも参加するようになりました。そして、お掃除のありがたさも知るようになりました。

不思議なつながりで掃除に関わりましたので、掃除の真髄はわかりません。けれども、鍵山先生のお体の手当てをしているときに、先生はいつも「お掃除はねえ……」って、いろんな話をしてくださいました。

一番印象に残っているのは、「学校で掃除が終わつて出て来たけれど、気になる所があつたからまた戻つたことがあつたんだよ」と話されたことでした。

「気になつた場所をよく見ると、ペットボトルが詰まつていて、それをとつたら勢いよく水が流れました。これをしなきゃいけないかつたんですよ」と言われました。

私は、鍵山先生のお体を手当てさせていただけながら、先生が体験された貴重なお話やお掃除のお心をたくさん感じてまいりました。それだけでも充分掃除の世界に入っていると思います。

こんなにありがたいことはなく、マンツーマンで本当の幸せを知った気がします。

鍵山秀三郎先生から頂いた大切なもの

京都府

河野こうの

正治まさはる



私は2014年3月、「これからの人生を、子どもたちを笑顔にする教育に捧げたい」と、卒業後

28年勤めた会社を辞め、学習塾を立ち上げました。その前から掃除はしていました。この状況下で、鍵山秀三郎先生がアドバイスを下さいました。

「毎日欠かさず、自宅と塾の間の道のゴミ拾いをするといいですよ」このお言葉を毎日実行していて、あるとき気付きました。「塾の周りがキレイになると、この道路を通る小・中学生の心もきれいになる」だろうと。

それ以降、このことを胸にしつかり想いつつゴミ拾いを続けました。すると、温かい声をかけていただいたり、畑で取れたものだからとお心遣いをいただいたり、近所の方々と心温まる交流が生まれてきました。さらに口コミで広まったのでしょうか、塾に通う生

徒さん方も増えてきました。

何のためにゴミ拾いをするのかを気付かせていただきました。今は、自分の手足を使ってゴミ拾いや近所の美化に努めることで、「子どもたちや近所の皆さんの心がきれいになる」ことに幸せを感じています。

「鍵山掃除道」は、自分の心も周りの方々も幸せにし、心温かい循環を創り出していくと思います。鍵山先生とそれを支援される方々のご活動が、世界に広がっていることも素敵なことだと思います。

大海原に身一つで漕ぎ出した私にとつて、「鍵山掃除道」の学びは、私の人生の土台となっております。素敵なご縁に感謝です。

(615-8282 京都府京都市西京区松尾大和町98-17

ベガサス松屋夢教室

掃除に出会って開けたこと

台湾 戴たい啓だいな珩



掃除道とのご縁は、2004年
ころ徐重仁創会理事長の要請で、
日本の掃除に学ぶ会の皆さんを
もてなしたのがきっかけでした。
そして今、台湾美化協会第四代
理事長を務めています。

最初はトイレ磨きにかなり抵抗
がありました。日本の仲間が手
本を見せてくれて、心の壁を突き
破りました。掃除後の明るい環境
のおかげで気分が良くなり、人に
接する態度も謙虚になりました。

私は経営する旅行会社に掃除
道を導入し、振替出勤日などを
使って、社員が毎日長くいる場所
を掃除するように導きました。席
の掃除や「断捨離」をすると、仕
事関係の道具が少なくなり、書類
の保管が簡素化され、環境がリフ
レッシュされ、社内の雰囲気も快
適になると実感します。

この数年、従業員が職場の環
境を大切にしようになり、団結
心が一層向上してきていると深
く感じます。

台湾では、新型コロナウイルスの感染が

適切に制御され、街頭や公園の
清掃活動が続けられています。宜
蘭、台東、台中の東海大学など
は、定期的に活動しています。清
掃活動と観光セットの1泊2日の
国内「清掃ツアープラン」も推進
しています。

今年我々もSDGsの検討を始
めたのですが、日本を美しくする
会の「SDGsの取り組みのリー
フレット」を拝見し、大変嬉しく思
いました。これは台湾と日本の清
掃活動をアップグレードする機会
になると信じます。

掃除活動に参加して、観光産業
の一経営者として、それまで未経
験の学校や社会福祉団体、ボラン
ティア活動などの世界をあらため
て見れ、また人生も豊かになり非
常に嬉しく思います。

後ろ姿

東京都

野田^{のだ}

佳彦^{よしひこ}



たくさんの言葉を弄さなくても、その挙措動作から強烈なメッセージを発信できる人物が稀にいます。「経営の神様」松下幸之助はそういう人でした。日常の立ち居振る舞いからも、日本の未来を案ずる強い危機感がひしひ

しと伝わってきました。

「掃除の神様」の後ろ姿からも、大きな薫陶を受けました。

私は1996年の衆院選で僅差で落選し、約4年浪人していたころ掃除道に出会いました。今も鮮烈な記憶として残っていることがあります。雪の降るとも寒い日、船橋で開催された「掃除に学ぶ会」、鍵山秀三郎相談役の実践指導もあるということで、たくさんの人が参加した熱気あふれる会でした。

充実感に満ち足りた気持ちで閉会となり、マイカーで帰路につきながら慎重に校門の間際まで進んだ時、前方の車が突然止まりました。後部ドアが開き、初老の男性が数メートル走り、雪景

色の中から1つの空缶を拾うと、直ちに車に戻りました。

車に乗り込む一瞬、男性の顔を確認しました。鍵山相談役でした。停車から発車までわずか数秒、私は鳥肌の立つような感動を覚ええました。

「ひとつ拾えばひとつだけきれいになる」は、単なるスローガンではありませんでした。「掃除の会」を終え会場から出ていくときも、ゴミを見つければ拾って去っていく。その自然体の実践現場を、幸運にも目撃することができました。

このエピソードは、「後ろ姿に人格が現れる」という教訓でした。忘れることのできない、決して忘れてはいけない思い出です。

掃除の道は生き方の道

兵庫県

渡邊 わたなべ

雅人 まさひと



「私は掃除の話しかできませんから…」

2019年末、「播磨掃除に学ぶ会」に初参加したときに、私は木南一志さん(写真左)に講演テーマを聞きました。私は「なんだ、掃除のことだけか」と思いました。掃除に「学ぶ」という意味が、まっ

たくわかつていなかったのです。

それ以来、私は毎月のように播磨の会に参加しました。コロナによる突然の中止を知らずに、掃除場所の小学校まで行ったときのことでした。そこには、暗いなか木南さんが立っておられ、中止を伝えてくださいました。いつからいつまで立っておられるのだろうか、思ったものです。

2021年、木南さんの指導を受け姫路の教師仲間トイレ掃除の会を催すことにしました。

2回目の会で、木南さんは「先生の指示に従います」と言われました。穏やかながら、「自立せよ」とのメッセージと受け取りました。その後も、近くに住んでいる私や学校の教頭よりも早く来られ、学校周囲のゴミ拾いをされて

いたこともありました。

「後片づけは次の準備です」「何年も掃除をしていないのに、一度ですべてキレイになるはずがありません」「コツはコツコツです」「汚れの一番ひどいところにまず手突っ込みましょう」「試されているのです。逃げるのか、向き合うのか、どこまでやるのか」「自分の持ち場は、際(きわ、境目)を出すと決まるのです」「実践を通して得た感動が自信につながるのです」「真剣な大人の姿が子どもに伝わるのです」

木南さんのお話は、「いかに生きるか」の話であり、私もようやくその意味がわかり始めました。掃除を通して、自分の生き方を求め続けます。

私の人生を変えた 鍵山先生の手紙

滋賀県

北村きたむら

遥明はるあき



10年以上前、滋賀便教会を発足したときに鍵山先生に来ていただきました。私は野球部の監督をしており、部員とトイレ掃除を行っていました。9人にも満た

ない部員でしたが、「今ある状況で、何ができるのか」という発想を学び、おかげで、その後薄紙一枚一枚を重ねる努力を続けることができました。

その後異動し、新しい学校に掃除の会の活動を取り入れた矢先のことです。「外部の人を学校に入れてよいのか」「良い活動かもしれないが、もうやめてくれ」と言われました。今なら、これは私が焦ってやっつたせいだと、冷静に振り返ることができですが、当時の私は「なぜそんなことを言われなければならないのか」と、相落ち込みました。

そんなときに、鍵山先生から手紙をいただきました。「どんな組織にも事情があるのだから、それをまず理解することです」そ

して、次のことを教えてくださいました。

「けれども、どんな場所にも自分に任された範囲があります。その中でやれることを続けてください。そうしているうちに、範囲が広がっていきます」

以後、私は毎朝一人で職員トイレの掃除をしました。そうしていると、確かにその範囲は広がっていき、ついにはいくつかの部活動で、トイレ掃除に参加してくれるようになったのです。

この経験は、「思いを持ってやり続けていくと、周囲に影響を与えることができる」という信念を私に植え付け、その後の仕事や有志勉強会（「近江虹天塾」14年目）への姿勢を支えています。